

令和4年3月期 決算概要（連結）

1. 連結決算実績

（単位：億円（単位未満切捨て））

区分		R4/3期 実績 A ※1	R3/3期 実績 B	増減			
				A - B	(A - B)/ B %		
営業収益	高速道路事業	12,952	8,991	3,960	44.0	① 表の右側の丸囲み番号について、2ページ以降に解説を記載しています。	
	料金収入	6,772	6,610	161	2.4		②
	道路資産完成高	6,145	2,351	3,793	161.3		③
	その他	34	29	5	17.4		④
	関連事業	344	318	26	8.2		⑤
	SA・PA事業	212	198	14	7.1		⑥
	その他の事業	131	119	12	10.1		⑦
計	13,296	9,309	3,986	42.8			
営業費用	高速道路事業	12,872	9,029	3,843	42.6	⑧	
	道路資産賃借料	4,715	4,457	258	5.8		⑨
	道路資産完成原価	6,145	2,351	3,793	161.3		⑩
	管理費用	2,011	2,220	▲ 208	▲ 9.4		⑪
	関連事業	372	359	12	3.4		⑫
	SA・PA事業	244	248	▲ 3	▲ 1.4		⑬
	その他の事業	127	111	15	14.1		⑭
計	13,244	9,388	3,855	41.1			
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	80	▲ 37	117	—	⑮	
	関連事業	▲ 27	▲ 41	13	—		⑯
	(うちSA・PA事業)	▲ 32	▲ 49	17	—		⑰
計	52	▲ 78	131	—			
経常利益(損失▲)		79	▲ 32	112	—		
当期純利益(損失▲) ※2		66	▲ 65	131	—	⑱	

※1 R3年度より「収益認識に関する会計基準」を適用しています。

※2 「当期純利益（損失▲）」には、「親会社株主に帰属する当期純利益（損失▲）」を記載しています。

（注）当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理
	その他の事業	受託事業、駐車場事業、トラックターミナル事業、コンサルティング事業等

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

2. 連結決算実績の解説

(1) 高速道路事業

① 管内の高速道路の通行台数は、対前期 5.2%増の 272 万台/日となり、料金収入は、「収益認識に関する会計基準」(以下「収益認識基準」といいます。)の適用に伴う影響【注 1】があったものの、対前期 161 億円 (2.4%) 増の 6,772 億円となりました。(仮に、収益認識基準適用の影響を除いた場合、対前期 496 億円 (7.5%) 増の 7,107 億円となります。)

〔 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和 2 年 3 月期と比較すると、通行台数は 9.7%減、料金収入は 874 億円 (11.0%) 減となっています。【注 2】 〕

②③ 道路資産完成高は、E55 徳島南部自動車道(徳島ジャンクション～徳島沖洲^{おきのす}インターチェンジ)の開通などにより、対前期 3,793 億円増の 6,145 億円となりました。

なお、道路資産完成高は、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」といいます。)に引き渡すため、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。

④ 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期 258 億円増の 4,715 億円となりました。

⑤ 管理費用は、前期に比べて安全・安心のための構造物補修費用等の増加があったものの、収益認識基準の適用に伴い、対前期 208 億円減の 2,011 億円となりました。(仮に、収益認識基準適用の影響を除いた場合、対前期 126 億円増の 2,346 億円となります。)

⑥ 高速道路事業の営業利益は、対前期 117 億円増の 80 億円となりました。

(2) 関連事業

⑦ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、対前期 69 億円 (12.2%) 増の 641 億円となり、S A・P A事業の営業収益は、対前期 14 億円増の 212 億円となりました。

〔 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和 2 年 3 月期と比較すると、S A・P Aの飲食物販店舗売上高は 322 億円 (33.5%) の減となっています。 〕

⑧⑨ S A・P A事業の営業利益(損失▲)は、対前期 17 億円改善し▲32 億円、関連事業全体では対前期 13 億円改善し▲27 億円となりました。

(3) 全事業

⑩ 当期純利益は、対前期 131 億円増の 66 億円となりました。

【注 1】 ETC マイレージサービスのポイントを利用した走行にかかる通行料金について、従来は高速道路事業の収益(料金収入)と費用(管理費用)にそれぞれ計上していましたが、当期から、収益認識基準の適用により、収益と費用への計上をとりやめています。

この結果として、高速道路事業の料金収入と管理費用の計上額が減少しました。

【注 2】 料金収入は、収益認識基準適用の影響を除いた場合で比較しています。

【参考1】 個別決算実績

(単位：億円 (単位未満切捨て))

区分		R4/3期 実績 A ※1	R3/3期 実績 B	増 減	
				A - B	(A - B)/B %
営業収益	高速道路事業	12,933	8,974	3,959	44.1
	料金収入	6,774	6,612	161	2.4
	道路資産完成高	6,145	2,351	3,793	161.3
	その他	13	9	3	39.8
	関連事業	154	127	27	21.3
	SA・PA事業	79	74	4	6.3
	その他の事業	75	52	22	42.4
	計	13,087	9,101	3,986	43.8
営業費用	高速道路事業	12,869	9,019	3,849	42.7
	道路資産賃借料	4,715	4,457	258	5.8
	道路資産完成原価	6,145	2,351	3,793	161.3
	管理費用	2,009	2,210	▲ 201	▲ 9.1
	関連事業	166	140	26	18.6
	SA・PA事業	91	88	2	2.5
	その他の事業	75	51	23	46.2
	計	13,036	9,160	3,876	42.3
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	63	▲ 45	109	—
	関連事業	▲ 12	▲ 13	0	—
	(うちSA・PA事業)	▲ 11	▲ 14	2	—
	計	50	▲ 59	110	—
経常利益(損失▲)		83	▲ 8	91	—
当期純利益(損失▲)		79	▲ 17	97	—

※1 R3年度より「収益認識に関する会計基準」を適用しています。

【参考2】 令和5年3月期業績予想

(単位：億円)

区分		連 結			個 別
		R5/3期 予想 A ※1	R4/3期 実績 B ※2	増 減 A - B	R5/3期 予想 ※1
営業収益	高速道路事業	13,293	12,952	340	13,293
	料金収入	6,778	6,772	5	6,778
	道路資産完成高	6,514	6,145	368	6,514
	その他	—	34	▲ 34	—
	関連事業	403	344	59	176
	SA・PA事業	267	212	54	96
	その他の事業	136	131	4	80
	計	13,696	13,296	399	13,469
営業費用	高速道路事業	13,288	12,872	415	13,288
	道路資産賃借料	4,705	4,715	▲ 9	4,705
	道路資産完成原価	6,514	6,145	368	6,514
	管理費用	2,069	2,011	57	2,069
	関連事業	389	372	17	169
	SA・PA事業	259	244	14	90
	その他の事業	130	127	2	78
	計	13,677	13,244	433	13,457
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	4	80	▲ 75	4
	関連事業	14	▲ 27	42	7
	(うちSA・PA事業)	8	▲ 32	40	6
	計	19	52	▲ 33	12
経常利益		23	79	▲ 56	7
当期純利益		18	66	▲ 48	7

※1 億円未満は四捨五入で表示しています。

※2 億円未満は切り捨てで表示しています。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。